

松本秀峰中等教育学校

1期生新年度「4年」に

松本市の松本秀峰中等教育学校に開校時の平成22年度に入学した第1期生が4月で4年生に進級する。「中等教育前期」に当たる義務教育の中学校を卒業したのと同等で、新年度から高校相当の「中等教育後期」を学ぶ。同校の「中等教育学校」制度は入学から卒業まで6年間一貫して学ぶため、文部科学省による戦後の学制改革以降、松本地方では初めて中学・高校相当の年齢の生徒が「一つの学校」で学ぶ場となる。

(小岩井貴之)

12日に3年生の前期課程修了式が開かれる。一般的な併設型の中高一貫校とは異なり、3年次修了での卒業や4年次からの入学はない。新4年生が所属するクラブや生徒

生相当と高校生相当のメンバーが一緒にいるため、運動系クラブは県高校体育連盟に加えるもの高校生の大大会への出場は個人競技や少人数競

高校相当課程へ進級

技にとどめる。文化系クラブは当面、県高校文化連盟に加えず活動する。また、4年生以上を対象に午後7時まで開く自習室も設ける予定で、現在は校内に試験的に開設している。

松本秀峰は、6年間で独自の「基礎期(1、2年生)」等教育学校は、6年間という



4年生への進級に向け、試験的に開設した自習室

の「充実期(3、4年生)」「発展期(6年生)」の三つの学習ステージを設けている。3年生は「充実期」の1年目として、すでに高校課程の一部を先取りして学んでいる。しかし受験を希望する生徒の保護者の問い合わせの中には、「高校受験はどうなるのか」や「後期(4年生)からの入学はできるか」といった誤解もみられるという。同校の菱田智晴教頭は「中等教育学校は、6年間という長い期間で自由にカリキュラムを組める『広域学習』が最大の強みだ。ようやく1、4年生がともに学ぶ場が生まれることで、同校の制度への理解がより深まれば」と期待している。